【小樽税務署長賞】

世界の税から学んで

小樽市立北陵中学校　三年

西村　真南

日本の世界幸福度ランキングの順位は五十四位。比べてフィンランドの順位は一位である。この順位の差には、ある決定的な違いがあった。それが税金の差だ。

テレビを見て知ったのは日本の世界幸福度ランキングは低いが、フィンランドは税金が世界で６位に入るくらい高いのに幸福度は一位らしい。私は税金が高い国は国民の負担が大きくそれにともなって幸福度は低くなると考えていた。まさか、その逆だとは思っていなかった。テレビを見て感心していると、もっとフィンランドの税の使い道について詳しく知りたくなった。

フィンランドの通常の消費税率は二十四パーセント、食品や食品サービス、レストランなどの低減税率は十四パーセント、本、薬などでは更に低減税率で十パーセントである。歯ブラシ一本ですら、日本の消費税率の二・四倍なのだ。他にも住民税、所得税など国民の負担は色々とある。本当にフィンランドは世界幸福度ランキングは一位なのだろうか。もっと調べてみると、誰もが納得するであろう一つの理由があった。

それは税の使い道にある決定的な違いがあった。フィンランドは五十パーセントを医療なども含む社会保障にあてているのに比べて、日本は四十パーセントほどである。それ以外にも教育にはフィンランドは十二パーセントあてていて、日本は八パーセントである。フィンランドの大学の学会が三百四十円ほどであったり、ベイビーボックスという赤ちゃんをこれから授かる家庭に無料で提供する、養育する時に必要最低限のものが５０アイテム以上そろうものがあったり、とにかく社会保障や子供の教育に力を入れる国であるということが日本とは大きく違うポイントである。社会的弱者に手厚く優遇をして、国民全員が幸せになってもらおうという考え方がすばらしいと思う。ぜひ日本にも取り入れてほしいと思った。正直、税について考えることは難し　正直、税について考えるということはかなり難しいことだろうと思っていた。しかし、一人一人が税について知り税がある意味を理解すれば、少しでも世の中は明るい方へ変わると信じている。税についての教育は、良い使い道を考える一歩につながり、その声がいずれ日本の政府に届けば、少子高齢化が問題の日本でも、子どもへの支援が手厚くなってよりよくなるかもしれない。私の思っていることはあまりに大きく実現が難しいので夢物語のように考える人も多いと思うが、一人でも多く税に関心をもてばより良い税の使い道のアイデアを生み出すかもしれない。

私は今回、世界の税と日本の税を比べたりしながら、新たな発見がたくさんあって学んだことも多かった。

一人の税への関心が、将来誰かを助けると思っている。